

# 病虫害防除技術情報第7号

令和元年7月26日  
三重県病虫害防除所

**コブノメイガの飛来・発生が確認されています。  
普通期水稲では、発生状況に応じて防除してください。**

1. 対象作物            普通期水稲(9月下旬～10月収穫予定)
2. 対象病虫害名      コブノメイガ
3. 発生状況
  - (1) JPP-NETの飛来予測によると、飛来日は6月7～8日及び6月15～16日と予測されます。
  - (2) 早期水稲では、発生圃場率は3.4%(平年2.5%)とやや多の状態です(7月第1半旬調査)。
  - (3) 普通期水稲では、発生圃場率は25.6%(7月第5半旬調査)、被害株率は3.3%であり、圃場や地域によっては、次の世代が増殖し被害が発生する恐れがあります。
  - (4) このうち、紀北町における調査圃場(7月25日)では、蛹と多くの第1世代成虫を確認しました。また、他の調査地でも、老齢幼虫が確認できたことから、県内への飛来は6月15～16日が中心と推測されます。
4. 生態と被害
  - (1) 本州では越冬できませんが、成虫が6月以降に飛来します。
  - (2) 雌1頭につき平均1,000個を産卵し、約5日で孵化します。
  - (3) 幼虫期間は約20日で、イネの葉身を縦に巻いて糸でとめた「つと状」の巣をつくり、内側から摂食します。
  - (4) 若齢幼虫は巻かれた葉に数頭、老齢幼虫は1葉に1頭のみ寄生します。平年は、1か月あまりで世代を経過します。
  - (5) 幼虫の発生密度が高いとイネの光合成能力が低下します。特に8月中下旬に出穂期を迎える普通期水稲で被害が大きく、止葉の被害葉率が20～30%で10%の減収になることがあります。
5. 防除対策
  - (1) 防除適期は幼虫の孵化揃い期です。幼虫が若齢のうちの防除が効果的です。

- (2) 現地調査及び発生予測から、孵化揃い期は8月第1旬と推測されます。
- (3) 成虫の飛来や幼虫の密度は圃場ごとに異なるので、必ず発生状況を確認してください。
- (4) 特に、これまで激しく食害された圃場では、防除が必要となります。また、コブノメイガは、葉色が濃いイネに被害が集中する傾向があるため、コシヒカリ等の早期栽培水稻に比べ、葉色が濃い普通期水稻では、コブノメイガの発生に注意してください。

6. 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤防除を行う際は、早期水稻などの周辺作物の栽培状況に留意し、周辺へのドリフト防止に努めましょう。
- (2) 防除に当たっては、農薬使用基準(使用時期、使用回数等)を守りましょう。

表1 コブノメイガの発生圃場率の推移(7月第1半旬に早期水稻で調査)

調査年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
発生圃場率(%)	0.0	21.9	1.3	0.3	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4

6月						7月						8月						9月					
第1半旬	第2半旬	第3半旬	第4半旬	第5半旬	第6半旬	第1半旬	第2半旬	第3半旬	第4半旬	第5半旬	第6半旬	第1半旬	第2半旬	第3半旬	第4半旬	第5半旬	第6半旬	第1半旬	第2半旬	第3半旬	第4半旬	第5半旬	
6月7日飛来	成虫	卵	幼虫			蛹	成虫	卵	幼虫			蛹	成虫	卵	幼虫			蛹					
6月15日飛来	成虫 卵		幼虫			蛹	成虫	卵	幼虫			蛹	成虫	卵	幼虫			蛹					

防除適期

図1 飛来予測及び有効積算温度に基づくコブノメイガの発生予測(令和元年7月25日作成)

コブノメイガの飛来予測から JPP-NET の有効積算温度計算シミュレーションを用いて算出

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。